

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：つちのこ保育園	種別：児童分野 認可保育所	
代表者氏名：蓑輪 央愛	定員（利用人数）： 60名	
所在地： 神奈川県海老名市杉久保南4-25-22		
TEL：046-238-3707	ホームページ： https://kotobukikai.ed.jp/nursery/tuchinoko/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2004年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人寿会		
職員数	常勤職員： 15名	非常勤職員 20名
専門職員	保育士：28名	看護師：1名
	栄養士：1名	調理師：1名
	調理員：2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：4室	ホール、事務室、相談室、調乳室、調理室、更衣室、園庭など

③理念・基本方針

<p>（法人理念） 人と自然に接し 人を愛し 自然を愛し 自分から遊べる自主性 とられることのない自由な心を持つ 大きな子に</p> <p>（保育基本方針） 夢や遊び心をもったのびのび生活するように いろいろな仲間とくらす中で、仲間を理解し自分も理解するように 小さいクラスから大きいクラスまで一緒にくらす中で、小さい子は大きい子を見て育ち、 大きい子は小さい子をかわいがる関係を大切に 子どもをまん中にして、保護者も保育者も保育園の生活をともに楽しんで行けるように 地域の子どもやお年寄りなど、いろいろな人が気軽に集まれる保育園に 子どもの笑顔が素敵な保育園に</p>

④施設・事業所の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「縦割りグループ活動」「食育活動」「課外活動」を保育の軸として大切にしています。天候が良い日には、散歩や外遊びを中心に午前中を過ごしています。また、ミニミニ運動会などの小さなお楽しみ会を実施し、小さい子どもから大きい子どもまで一緒に楽しんでいます。行事は子ども自身が楽しむものと考え、1か月に1回程度は行事があり、保育に盛り上がりを作っています。 ・海老名市から委託を受け、園から100m程の場所に南部子育て支援センター「はらっば」を開設しています。また、一時保育事業や休日保育事業もおこなっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月14日（契約日） ～ 2021年12月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2016年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちは、友だちと一緒に元気いっぱいに園生活を楽しんでいます

園は、年齢の違う子どもたちが一緒に過ごす中で、お互いが育ち合うことを大切にしています。0・1歳児、2・3歳児、4・5歳児で日常的に交流するほか、3歳児から5歳児で縦割りグループを作って定期的に活動しています。ぎょうざパーティーやミニミニ運動会などの縦割りでの行事も多くあります。

子どもたちは、雨でなければ毎日、散歩や園庭で外遊びをしています。園の周りには、自然豊かな林や森がたくさんあり、虫や花等季節の自然を楽しむことができます。マラソンやボール遊びなどで身体をたくさん動かしています。高尾山や大山登山、海遊びなどの園外活動の機会も多くあります。絵や歌、ダンス等の表現活動にも力を入れています。このような取り組みを通し、子どもたちは人と自然に多く関わることで、多くのことを学び、元気いっぱいにのびのびと園生活を楽しんでいます。

◆保護者との関係作りに力を入れています

「子どもを真ん中にして」保護者も職員も一緒に保育園生活を楽しめるよう、保護者との関係作りに力を入れています。朝夕の送迎時には、全職員がそれぞれの立場で保護者と会話し、子どもの様子をエピソードを交えて伝えながら保護者の声を聞きます。保護者からの相談にはいつでも応じ、内容に応じて、担任や園長、主任が丁寧に話を聞き、相談にのっています。個人面談やクラス懇談会、保護者参加などを通して、園の保育内容を伝え、保護者が子どもの成長を共に喜び、子育てを楽しめるようにしています。

◆子どもの様子を密に共有し、全職員で全園児の成長を見守っています

職員は、職員会議等で理念や基本方針に沿っているかを常に確認し、目指す保育の実践に向けて取り組んでいます。「職員の心得」に子どもの人権を尊重するために配慮すべきことを明記し、職員会議や研修で読み合わせをおこない、一人ひとりの子どもを尊重した保育を実践しています。保育士は、毎朝のミーティングやクラスでの振り返り、職員会議等で子ども一人ひとりの状況を共有した上で対応を統一し、全職員で全園児を見守る体制を作っています。保育士は子どもの小さな発見をともに楽しみ、出来たことをともに喜び、子どもの気持ちに寄り添っていて、子どもたちも素直に自分の気持ちを表し、安心して過ごしています。

◆地域の育児支援に積極的に取り組んでいます

園は、地域の福祉施設としての意識を高く持ち、地域の育児支援に積極的に取り組んでいます。週1回、園庭開放を実施していて、コロナ禍でも園児の午睡中に行っています。園庭開放では育児相談も受付けています。

また、海老名市から委託を受け、園から100m程の場所に南部子育て支援センター「はらっぱ」を開設しています。一時保育事業では、入所保留となった子どもを緊急的に預かり、定期利用や午前7時から午後7時まで受け入れるなど、待機児童の解消に向けて取り組んでいます。休日保育事業もおこなっています。

◇改善を求められる点

◆文書化への取り組みを進めていくことが期待されます

子どもに関する記録は丁寧に記載され、個別にファイルされています。ただし、マニュアルによっては、見直しが不十分であったり、要点のみで具体性に欠けた内容になっているものもあります。現在は、経験の長い職員が多く、マニュアルに頼らずに質の高い保育が実践されていますが、職員の異動や世代交代に備え、初めての人でもわかるように整備していくことが期待されます。また、今後予定しているICT化により業務の合理化を図るとともに、園の取り組みに画像等の活用も取り入れて文書化することで、園が大切にしている保育を次世代につなげていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

つちのこ保育園は、施設運営時代から含め創立 40 年が過ぎ民営化して杉久保南に移築してからも 17 年を迎えようとしています。第三者評価は、5 年に一度の受審が望ましいとのことから前回の平成 28 年度受審に続き今年度受審することにしました。

第三者評価は、前回に引き続きよこはま地域福祉研究センターさんをお願い致しました。コロナ禍の中で配慮をしていただきながらの保育園訪問、書類審査、職員面接等を行っていただき安心して受審することができ感謝しております。

第三者評価の項目に関しては、5年前とはだいぶ変わっており、組織の運営管理についての項目に重点が置かれており、一つひとつの項目を丁寧に読み解きながら職員間で学び合いをしながら進めていきました。

つちのこ保育園が創立当初から大切にしている「保育理念に基づく保育方針」を基盤にし日々の保育運営に努めていることだけでなく、福祉サービスについても学びを深めることができたと思います。

学びを深める中で、つちのこ保育園の良い部分、弱い部分が明確に見えてきました。弱い部分が明確化したところで良い部分がより際立つように今後の課題として職員と共に日々大切にしている「子どもをまんやかにして保護者も保育者も共に見守る保育」を進めていけたらと思っています。

この2年間は、保育園もコロナ禍の中で厳しい状況にありました。子ども達の健康を守りながらも休園は極力避けなければならない中で子ども達の心身共の成長を守りながらどう日常や行事を進めて行くかを職員共に模索する日々でした。そのような中でも職員で協力しながら知恵を出し合い様々な計画をしました。新たな保育サービスとして今後の保育にも活かして行きたいと思います。

最後になりましたが、今回の受審にあたり、保育アンケートにご協力いただいた保護者の皆様にも感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり